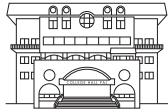


大学広報誌

[パル]



ICL

place amie liberte

2019 AUTUMN Issue.537

特集「教職センター長インタビュー」

Campus Archive / Way to go!

University & College News

平成30年度事業概要報告

新着NEWS

Hokusho People



本学の教員養成、3つのストロングポイントとは？



特集 | 教職センター長インタビュー

特集 | 教職センター長インタビュー

北翔の教員養成の強さに迫る

北翔大学・北翔大学短期大学部の教員養成は、前身の北海道女子短期大学時代から50年以上の実績があり、昨年度は過去最多の195名が教員登録されました。このように高い数字を実現できた理由について、教職センター長の長尾明也教授に聞きました。



写真：6月の教員採用候補者選考検査の第1次検査を突破し、8月の第2次検査に向けたオリエンテーションでの様子

——昨年度の教員採用候補者選考検査では、登録者数が195名という結果でした。まずはその振り返りからお願ひします。

過去最高であった2年前の143名を52名も上回るという大変素晴らしい結果だと思います。これまで15%前後で推移していた現役生受験者の合格率も、教育学科1期生が受験した2年前には一気に30%を超え、昨年度は43.2%となりました。

全受験者の合格率を2年連続で上回る結果となり、道内私立大学のなかでは「教員養成といえば北翔」という確固たる地位を築くことができたと思います。背景には、教員志望離れなどもあるでしょうが、本学学生の頑張りを素直に喜びたいと思います。

そして3つ目は、学生自身です。本学には思いやりがあって、誠実で、素直で、あいさつもしっかりできる学生が本当に多いと感じ

実習のみならず、教員採用選考検査対策、免許状更新講習、教員免許申請業務など、学生を全面的にサポートしています。



しっかりと自信をつけられるように支えてくれるもので、これは私の経験からも間違いない。その結果、「先生になりたい！」という気持ちを高めて大学に戻ってくる学生が多くなるという好循環が生まれるので。

教採の一次・二次対策講座にも力を入れています。とくに二次対策講座は、退職された教員や教職課程を置かない学科の教員の協力も得て、学生たちが面接練習や実技練習などに励んでいます。こうした取り組みの成果として、昨年度の一次合格者のうち、79.7%が二次を突破するという非常に高い数字が出ました。多くの先生方のサポートが目に見えるかたちとなって現われたのは本当にうれしいことです。

また、昨年度からは「教職課程学習室」も設置しました。小学校教諭、中学校・高校教諭、養護教諭をめざす学生別に3クラスを設け、通年で週1回ずつ開講しています。こちらも本学を退職された教員が講師を買って出てくださいり、本当にありがたい環境が整っています。さらに教職センター以外にも、図書館にある学習サポート教室では、一次試験に向けた基礎的な学習を支えてくれています。

——全学をあげたさまざまな取り組みが、結果となって現われてきているのですね。今後、教職センターでとくに注力すべきは、どのような点だとお考えですか？

これまで登録者数を増やすことに全力を注いてきました。今後は現在のよい部分をさらに高めながら、平成18年7月の中央教育審議会の答申に基づき、養成段階の質の保証の観点からも、教員を志す者としてふさわしい人材の育成に努めていきたいと考えています。教育的な愛情があり、同僚や地域の方々と力を合わせながら、子どもたちが成長するために努力を惜しまない。そんな教員が、この先も本学からたくさん生まれることを期待しています。

「教員養成の北翔」は、全学一丸となった成果。さらに学生サポートの質を高めていきたいです。

——長尾



——このような結果が出ている学内的な要因についてはどのようにお考えですか？

教員養成における本学のストロングポイントは3つあると思います。1つ目は「教職センター」です。本学の教職課程は、前身の北海道女子短期大学から受け継がれてきた伝統がありますが、平成21年に「実習支援センター」が「教職センター」となり、教職課程全般にかかる部署として生まれ変わったことは大きな変革だったと思います。現在は教育

——1つ目の「教職センター」について、具体的な取り組みを教えてください。

教職センターでは、教育実習の前年度からオリエンテーションなどを繰り返し行い、学生に対し教育実習に向かう心構えなどを伝えています。教育実習とは、園児・児童・生徒さんの大切な時間を借りて学ばせてもらう場。そのことをよく理解し、積極的に取り組むように意識を高めてもらっています。そのような学生であれば、実習先の先生方も



CAMPUS ARCHIVE

キャンパス・アーカイブ／2019年3月～2019年9月までの出来事

2019.03 - 2019.09

III International

本学学生が「北極圏600kmを踏破」！



写真提供：荻田泰永遠征事務局



「北極圏を目指す冒険ウォーク 2019」に挑戦し、無事成功した教育文化学部芸術学科3年生の三浦善貴さんが、元気に帰国されました。

「北極圏を目指す冒険ウォーク 2019」とは、北極冒険家の荻田康永さんの企画による冒険で、カナダ北部から北極圏を目指しメンバーそれぞれが60キロの物資を積んだソリを引き600kmを歩きます。参加者は19歳～27歳の学生、社会人、フリーター等。性別・職業はさまざま。今回の挑戦では募集は行わず、自ら志願した12名で構成されています。

カナダ北部での3日間に及ぶ実地トレーニングを終え、現地時間4月7日9時（日本時間同日22時）、ゴールのクライドリバーに向けて歩き出しました。そしてスタートから29日目、現地時間5月5日11時

10分（日本時間5月6日0時10分）、メンバーは誰も欠けることなくゴール地点・クライドリバーへ無事到達しました。

帰国後三浦さんは、5月16日に山谷 敬三郎学長を訪ね北極圏での成果の報告を行いました。「見るもの、感じること、体感で驚くことばかり。空が高く、遮るものもなく、自然がすごすぎてファンタジーのようだった」と、生き生きとした表情で語り、山谷学長は興味深そうに聞いていらっしゃいました。

事前の調査と安全第一の確認を行いながらの活動を行っていたため、大きな危険を感じることはなかったが、食生活が辛く、ハンバーグや甘いものが食べたかったそうです。永い夜には、更なる冒険や新しいことへの挑戦について北極圏の星空の下で語り合ったそうです。

III Report

「ほっかいどう未来チャレンジ基金」の寄附贈呈式に参加

平成30年3月27日に北海道庁で開催された「ほっかいどう未来チャレンジ基金」の寄附贈呈式に、生涯スポーツ学部スポーツ教育学科に所属する体操競技部顧問の廣田修平准教授が、当基金第1期生代表として参加しました。

贈呈式には今回、当基金にご寄附いただきましたアサヒビール株式会社 北海道統括本部理事本部長の門田高明氏、イオン北海道株式会社 取締役兼

執行役員営業本部長の関矢充氏、マックスバリュ北海道株式会社 取締役人事総務本部長の玉生澄絵氏が参列されました。

贈呈式の最後に、廣田准教授は当基金にご寄附をされた企業パートナー様にお礼を申し上げるとともに、北翔大学体操競技部ならびに北翔大学スポーツクラブ（体操）の取り組みを紹介し、今後の抱負を述べました。



III Campus

「食生活改善運動（100円朝食週間）」を実施

健康と元気をテーマに「食生活改善運動（100円朝食週間）」が実施されました。

令和元年5月29日～31日にかけて、本学PAL館4階食堂にて下記メニューが、それぞれ100円で提供されました。

■ 5月29日（水）／カルシウムプラス朝食

クラムチャウダー、背割りコッペパン＆クロワッサン、

ワインナー＆サラダ、フルーツ、牛乳

■ 5月30日（木）／食物繊維たっぷり朝食

とろろかけ豚丼温玉のせ（もち麦ごはん又は白飯）、根菜ナムル、豆腐と長葱の味噌汁、フルーツ、牛乳

■ 5月31日（金）／スマニナ栄養朝食

ダッカルビ丼（もち麦ごはん又は白飯）、大根とひじきのサラダ、ほうれん草とワカメの味噌汁、ヨーグルト



III Report

2019年度「救急時AED講習会」を実施！



令和元年5月25日、本学トレーナー部（赤十字救急法救命員認定資格者）と（株）ノーバリース社AED指導担当者の協力により、学内学生団体を対象とした救急対応講習会を実施いたしました。

講習会では「事故発生時における救急対応の流れ」・「AEDの使用方法」・「学内のAED設置場所」の確認を行った後、実技講習に移り救急救命措置の初期対応や心肺蘇生（胸骨圧迫+AED機器操作）を受講しました。

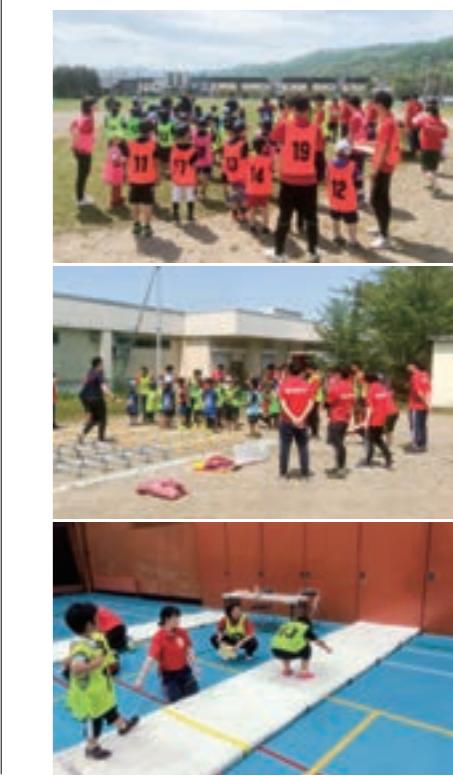
今後、学生が学内外で救命措置を必要とした場合に役立つ知識が増え、落ち着いて救命に取り組む心構えができたことと思います。

III Sports

「こども体力測定会・走り方教室」赤平市で開催！

令和元年5月19日、赤平市教育委員会と連携し、「こども体力測定会・走り方教室」を開催しました。約50名の子どもたちとスポーツ教育学科の学生が元気に活動しました。

体力測定会では、文部科学省「新体力テスト」を実施しました。走り方教室では走り方の専門家によるリズムや器具を使った様々なトレーニングを行い、参加した子ども達はどんどん身体の使い方が上手くなっていました。



WAY TO GO!

クラブ・サークル・学生たちの活躍

CLUB, CIRCLE AND OTHER ACTIVITIES

バドミントン部

「第61回北海道学生バドミントン春季リーグ戦大会」優勝！

平成31年4月23日～26日にかけて、「第61回北海道学生バドミントン春季リーグ戦大会」が野幌運動公園体育館にて開催されました。

本学バドミントン部の結果を以下の通りご報告させていただきます。

■男子1部

1日目／北海道教育大学函館校	5-0
2日目／北海学園大学	4-1
3日目／札幌大学	4-1
4日目／北海道教育大学旭川校	3-0
【最終結果】優勝（4戦全勝）	



■女子1部

1日目／酪農学園大学	5-0
2日目／北海道教育大学岩見沢校	5-0
3日目／北海道教育大学旭川校	5-0
4日目／札幌大学	3-0
【最終結果】優勝（4戦全勝）	



女子バレーボール部

「女子バレーボール部 春季リーグ戦」12年ぶり24回目の優勝！

平成31年4月27日～令和元年5月18日まで開催された「第52回 大滝杯北海道大学男女バレーボールリーグ春季大会」において、本学女子バレーボール部は8戦全勝で優勝を飾りました。

秋季リーグ戦では失セットゼロでありましたが、

今回は総当たり1回戦でフルセットに持ち込まれる危ない場面もありました。各会場でご声援頂いた皆さまには本当に感謝申し上げます。ありがとうございました。引き続きご支援、ご声援の程よろしくお願致します。

【最終結果】優勝（8戦全勝）

- 個人賞 【スパイク賞】 平田 琴音（スポーツ教育学科2年／札幌山の手高等学校出身）
- 【サーブ賞】 殿山 祥子（スポーツ教育学科3年／札幌啓北商業高等学校出身）
- 【レシーブ賞】 廣瀬 未佳（スポーツ教育学科2年／北海道大谷室蘭高等学校出身）
- 【セッター賞】 白澤 美南（スポーツ教育学科4年／札幌大谷高等学校出身）
- 【リバウンド賞】 畠山 初音（教育学科4年／札幌山の手高等学校出身）
- 【新人賞】 角田 早紀（スポーツ教育学科1年／札幌山の手高等学校出身）



陸上競技部

「陸上競技・北海道インカレ」女子8年連続51回目総合優勝！！

令和元年5月31日～6月2日、札幌市厚別公園陸上競技場において第71回北海道学生陸上競技対校選手権大会が行われました。

女子では本学が8年連続51回目の総合優勝を飾り、男子は総合5位という結果になりました。そのうち男子は2種目、女子は7種目での種目優勝を果たし、これらの選手と標準記録突破者が9月に岐阜県で開催される日本インカレに出場します。



■種目優勝・男子

- 【棒高跳】近藤 城主／4m70
(生涯スポーツ学研究科1年／野幌高等学校出身)
- 【砲丸投】五十嵐 宣弘／14m77（大会新）
(スポーツ教育学科4年／静内高等学校出身)
- 【400m ハードル】関口 花音／1分07秒82
(スポーツ教育学科1年／苫小牧東高等学校出身)
- 【400m リレー】47秒18
武田 美里・山崎 愛結・床 杏莉・野呂 真愛
- 【砲丸投】尾田 桃香／12m44
(スポーツ教育学科2年／札幌藻岩高等学校出身)

■種目優勝・女子

- 【100m】床 杏莉／12秒12
- 【200m】床 杏莉／24秒70
(スポーツ教育学科2年／恵庭北高等学校出身)
- 【400m】野呂 真愛／58秒57
(スポーツ教育学科4年／北海高等学校出身)
- 【100m/200m/400mリレー（3冠）】床 杏莉

■女子最優秀選手賞

- 【100m/200m/400mリレー（3冠）】床 杏莉

国際試合

「女子アイスホッケー 日本代表」銅メダル獲得！

本学、生涯スポーツ学部4年生・坂下三冬さん（武修館高等学校出身）、同学部2年生・日向 櫻さん（八戸商業高等学校出身）が日本代表として選出された女子アイスホッケーチームが、ロシアにて開催された「第29回 ユニバーシアード冬季競技大会」において見事、銅メダルを獲得いたしました。

帰国後、参戦した2名の学生が学長室を訪ね、応援のお礼と今後の意気込みを報告いたしました。



国際試合

ろう者競技大会

「柔道競技日本代表内定」！

令和元年6月23日、東京都で開催された「アジア太平洋ろう者競技大会 柔道競技日本代表選考会」において、田中 統さん（スポーツ教育学科2年／北海道高等聾学校）が66～73kg級で優勝し、11月に開催されるアジア大会（香港）の日本代表として内定したことを受け、山谷学長に大会の優勝と日本代表内定の報告を行いました。

■今後の予定

- 10月5日～6日：日本代表選手の強化合宿（東京都）
- 11月1日～11日：第9回アジア太平洋ろう者競技大会（香港）





UNIVERSITY & COLLEGE NEWS

学部・学科ニュース

教育文化学部

School of Education and culture

教育学科 Department of Education

「ほっかいどうジオパークまつり 2019」スタッフとして活躍

令和元年7月14日、北海道博物館で「ほっかいどうジオパークまつり 2019」が開催され、教育学科から15名の学生がボランティアとして参加しました。このイベントは、道内のジオパーク[※]が子ども向けの作りや実験を通して、地域の地質や自然、産業などに目を向けてもらいたいと開催されているもので、教育学科の学生は初年度の2016年から毎年参加しています。

多くの子ども達や、保護者の皆さん、各ジオパークの職員と過ごす濃密な1日は、教員を目指す学生達にとって、貴重な学びとなりました。また、スタッフの皆さんからも、北翔大学の学生がいなければ成立しないイベントだと、嬉しい言葉もいただきました。

*ジオパークとは価値ある地質を保全・活用し、大地を学び・楽しむ地域のこと、北海道には5箇所のジオパークと3箇所の準備地域があります。



生涯スポーツ学部

School of Lifelong Sport

スポーツ教育学科 Department of Sport Education

ゼミ活動で 「第7回全日本車椅子ソフトボール選手権大会」に出場

令和元年7月6日、7日に「第7回全日本車椅子ソフトボール選手権大会」が千歳市アトレットモール・レラを会場に開催され、渡部峻講師のゼミ学生らが2チームで参戦しました。青空のもと優勝目指して全国のチームと熱戦を行ひ、社会人と4年生で編成した北海道BチームがDivision 2で優勝しました。

大会中には、ボランティアとして携わってくれた地元の少年・少女野球チームの子どもたちに、車椅子ソフトボールを体験してもらいました。この体験は学生と子どもたちが交流する中で自然発的に実現したもので、人のふれあいを通じたスポーツが持つ価値を体感した貴重な学びとなりました。車椅子ソフトボールには本学のゼミ生以外の参加者も募集しています。障がいの有無は問いません。練習に参加してみたい方はスポーツ教育学科 渡部 峻講師までご連絡ください。



健康福祉学科 Department of Health and Welfare Science

楽しく認知症予防・介護予防！「ホクリンピック」終了！

令和元年7月13日、札幌円山キャンパスにおいて高校生や地域の方々を対象に、認知症予防・介護予防の啓発と支援をテーマに、ニュースポーツなどの体験とその意義に関する講義を行う「ホクリンピック」を開催しました。スポーツ吹き矢など4種目のニュースポーツにチャレンジ！素敵なシェルアートやアロマボットづくりや認知機能検査も体験していただきました。最後に、健康福祉学科の小田教授によるミニレクチャーが行われ、運動やもの作りが脳や体の機能を高める効果があることなどが解説されました。

健康福祉学科では、高齢化の進む北海道において、人を元気で笑顔にする福祉の学びを展開しています。2020年度より専門性に特化した2コース制を導入し、さらなる学びの深化と人材育成を目指して参ります！



芸術学科 Department of Art and Design

芸術学科のHPリニューアル！

芸術学科の独自ホームページがリニューアルしました。芸術学科は今年度より学生広報チームを立ち上げました。今後学生広報チームを中心にいろいろと試しながらこのサイトを拡充、運営していくことを考えております。スマートフォン、タブレット、PCなどのツールを使って見やすいようになっています。

是非アクセスしてみて下さい！また、Twitter、Facebookにはイベント、学生生活、授業の様子 etc.. の情報を、Instagramには大学に関する素敵な写真をほぼ毎日アップしていますので、是非ご覧ください！ www.hokusho-art.com



心理カウンセリング学科 Department of Psychology and Counseling

対人援助を学ぶ「学外見学実習」

2年次必修科目「心理学基礎演習Ⅰ」の一環で、対人援助の実践と現場についての理解を深めることを目的として、「江別市社会福祉協議会」、「訪問と居場所 漂流教室」、「地域子育て支援拠点ねっこばっこ」のいえ、「北海道警察本部 少年課少年サポートセンター」に協力を頂き、学外での見学実習を実施いたしました。それぞれの施設において、支援の対象となる方の特徴や主な支援の内容等についてご説明を頂き、多様な支援のありかたを学ぶことができました。そして、卒業研究に向けてのテーマの選定においても、また、学生自身の今後の進路を考える上でも貴重な体験となりました。



短期大学部

Hokusho College

短期大学部

ライフデザイン学科 Department of Life Design Studies

職業教育の原点を重視した理論と実践の ビジネス教育の推進 キャリア・ファッショント舞台の3コース制による 高度な職業教育の展開

2020年度よりライフデザイン学科は、キャリアデザインコース・ファッショングコース・舞台芸術コースの3コース制となります。短期大学の原点である職業教育という概念を受け継ぎつつも、創造的な知識の発想を促すアクティブラーニングを積極的に盛り込み、理論・演習で培ったスキルを学内外の活動において実践的に發揮し、活きた教育を展開しています。

ライフデザイン学科の特徴は、キャリア・ファッショント舞台芸術、それぞれの専門性を活かしながらも、キャリアビジネス、ファッショント衣類制作、舞台芸術・演者・舞台装飾という各専門コースを中核として、コースの壁を超えて科目履修することを可能として、スキルアップを図ることを実現しています。



こども学科 Department of Childhood Studies

貴重な体験から伝え学び合う「教育実習報告会」

先日、こども学科では2年生による教育実習報告会が開催され、学科全体で参加しました。全道各地の幼稚園・小学校のどちらかで3週間行った報告内容は、事前の準備から実践の報告、子どもの姿・教師・保育者の姿から学んだこと、日誌や指導案について、最後には1年生に向けてのアドバイス等、大変盛況でした。



1年生は、来年度の教育実習に向けて、先輩たちの実際の貴重な体験談や今後の課題等について熱心に耳を傾けました。その後の感想に、「詳しく丁寧に報告してくださり、とても参考になりました」、「先輩たちのようになりたい」、「意欲がわきました」という内容を伝え、2年生にとっては大変励みになり、誇らしさと喜びが一気に沸き上がる瞬間だったと思います。1・2年生ともに、今後も更に学びを深め、大きく成長していくことを期待しています。



高大連携

北海道月形高等学校の生徒が来学しました

令和元年5月9日、北海道月形高等学校の2年生22名と引率教員3名が来学されました。学長から歓迎の挨拶、地域連携センター長から本学の特色について説明を受けた後、模擬授業受講、学食での昼食体験、施設見学を行い、大学の実際の雰囲気に触れていただきました。



北見商科高等専修学校の生徒が来学しました

令和元年5月10日、北見商科高等専修学校の1年生42名と引率教員3名が来学されました。はじめに、学長から歓迎のご挨拶、地域連携センター副センター長からは本学の特色について説明がありました。講義見学では、生涯スポーツ学部1年生の講義を、学生と一緒に聴講して



『戦前・戦中期社会事業関連資料集成』を購入しました。

平成31年1月、文部科学省による平成30年度私立大学等研究設備整備費等補助金の交付を受け、「戦前・戦中期社会事業関連資料集成」全64巻を購入しました。戦前・戦中期の雑誌「社会事業」「優生学」等の復刻版で構成され、特別支援教育、健康教育、社会福祉を主要な専門分野とする本学には欠かせない貴重資料です。とくに「社会事業」は現在購読中の雑誌「月刊福祉」の前身で、1909(明治42)年創刊の「慈善」「社会と救済」から引き継がれた社会福祉専門誌の草分けです。図書館1階ラーニング・コモンズの展示コーナーで、まとめてご覧ください。



写真左／昭和5年7月キャンピング特集号
写真右／昭和17年3月母性の生活と保護特集号

同窓会

雅館を改修しました

以前は学生寮として使われていた雅館ですが、15年前に淑華会が部屋を改修し、合宿所として使用できるようになりました。しかし、トイレ(和式)、洗面所(ステンレス製の流し台を使用)、風呂等の水回りは53年前のまま使用されていたため、老朽化が進み現代の若者には不気味な空間になっていました。

利用する学生たちにとってより快適な環境を提供するために、僭越ではありますが改修に踏み切りました。同時にアリーナ(体育館)の和式トイレを洋式に改修をしたため費用は約680万円と多額になりましたが、本学で学ぶ後輩達がより価値ある学生生活を送れるようこれからも淑華会は力になりたいと願っています。



2019年10月～2020年3月【共通行事予定】

		2019年		2020年	
10月	19日(土)	大学院 第1期入学試験 学内公開日		14日(火)	指定休日(11/4の振替休日)
	20日(日)	大学院 第1期入学試験(7号棟・PAL棟立入禁止)		18日(土)	大学入試センター試験(全構内立入禁止)
11月	16日(土)	推薦入学、社会人・帰国子女特別選抜入学試験 学内公開日(全構内立入禁止)		19日(日)	大学入試センター試験(全構内立入禁止)
	17日(日)	推薦入学、社会人・帰国子女特別選抜入学試験(全構内立入禁止)		1日(土)	A日程・編入学第3期・大学院第2期入学試験 学内公開日(全構内立入禁止)
	29日(金)	編入学 第2期 入学試験 学内公開日		2日(日)	A日程・編入学第3期・大学院第2期入学試験(全構内立入禁止)
12月	30日(土)	編入学 第2期 入学試験(7号棟・PAL棟立入禁止)		16日(日)	大学見学会(A日程・センター試験 A方式合格者)
	8日(日)	ミニオープンキャンパス		29日(土)	大学院第2期入学試験 学内公開日(全構内立入禁止)
	29日(日)	学校閉鎖(～1/3まで)、冬季休業日(12/28～1/5)		1日(日)	大学院第2期入学試験、B日程・編入学第4期入学試験 学内公開日(全構内立入禁止)
3月				2日(月)	B日程・編入学第4期入学試験(全構内立入禁止)
				8日(日)	オープンキャンパス
				18日(水)	学位記授与式(11:00)

OPEN CAMPUS 2019-2020



8月3日(土)・4日(日)、9月22日(日)
にオープンキャンパスを開催しました。北海道
内外からたくさんの中学生や保護者の方を
迎え、学科相談、学食体験、学内見学、体験
授業など多彩なプログラムを実施し、本学の
魅力を在学生が中心となり伝えることができ
ました。
次回は12月8日(日)にミニオープンキャンパス
を開催します。教職員一同心より、参加を
お待ちしておりますので、本学に興味をお持ち
の方へご参加くださるようお声かけをお願い
致します。



[お問い合わせ] アドミッションセンター TEL: 011-387-3906

夏・秋の
オープンキャンパス開催!

北極圏 600km を踏破！ そしてこれからも、 「冒険」は続いていく。



2月に北海道内で合宿を行い、道具の使い方を学ぶとともに親睦をはかり、2月25日にカナダへ出発。1週間ほど現地でトレーニングをしながら、食料をパッキング。1人1食分ずつ、全部で1400パックほどになり、歩く前にヘトヘトになってしまったほどの量でした(笑)。

4月8日、ついに冒険ウォークがスタート。1日9～10時間ずつ歩き、出発から29日の5月6日、無事にゴールすることができました。雪と氷が織りなす絶景、時折登場するキツネやライチョウ、そしてホッキョクグマ。オーロラは何度も見ること

を踏破するというプロジェクトです。

2月に北海道内で合宿を行い、道具の使い方を学ぶとともに親睦をはかり、2月25日にカナダへ出発。1週間ほど現地でトレーニングをしながら、食料をパッキング。1人1食分ずつ、全部で1400パックほどになり、歩く前にヘトヘトになってしまったほどの量でした(笑)。

左足が不調な一方、もっと歩きたいという気持ちが強く、ゴールしてもあまり達成感を得られませんでした。これは自分がさらに次をめざしたいと思っているからだと捉え、今度は同じく荻田さん主催の「100マイルアドベンチャリー」に引率役で参加します(掲載時には終了)。小学校6年生が夏休みに100マイル(160km)を踏破するというプロジェクトで、自分がめざす将来のひとつ「教員」にもつながっています。そのほか、今後もさまざまな意味での「冒険」を続けていきたいです。

さんのが主催する「北極冒險家の荻田泰永ウォーク2019」に参加しました。小さなころから冒險に憧れていたのですが、芸術学科の学生が毎年携わっている「TEDx Sapporo」のプレゼンテーションイベントで荻田さんと出会い、「一生二度の冒險がしたい！」と思って参加をお願いしました。隊員は社会人、フリーター、学生など全員20代の12名。そこに荻田さんと記録カメラマンを合わせた14名でカナダの北極圏・バイン島を約1か月かけて歩き、600kmを踏破するというプロジェクトです。

左足を痛めている、長時間の歩行は難しくなります。今回は全行程、スキーを履くことになつて、歩くことになりました。そこでトラブルもありました。僕はスポーツで



ができます。気温は日中でもマイナス10～20度でしたが、歩いていると暑さを感じることも多かったです。

トラブルもありました。僕はスキーで

厳しくなり、後半10日間は僕だけスキーを履かないで歩くことに。当然一人だけベースが落ち、皆さんには迷惑をかけました

が、なんとか歩き切ることができました。

左足が不調な一方、もっと歩きたいと

いう気持ちが強く、ゴールしてもあまり

達成感を得られませんでした。これは自分

がさらに次をめざしたいと思っているから

だと捉え、今度は同じく荻田さん主催の

「100マイルアドベンチャリー」に引率役で

参加します(掲載時には終了)。小学校

6年生が夏休みに100マイル(160km)

を踏破するというプロジェクトで、自分が

めざす将来のひとつ「教員」にもつながります。そのほか、今後もさまざまな意味での「冒険」を続けていきたいです。

PROFILE

1998年6月8日、札幌市生まれ。北海高等学校出身。北翔大学 教育文化学部 メディアデザイン分野専攻3年生。
美術教諭の免許状取得をめざして教職課程を履修するとともに、広い視野で将来を模索中。所属サークルは国際交流アシスタント.com、アート表現部。

北翔大学寄付金募集のご案内

本学では、このところの経済不況により就学の継続が困難な学生の増加に伴い、学生への支援とあわせて、良質な教育環境を今後も維持していくために、寄付金を募集しています。

ご支援を賜りました寄付金は有効に活用させていただき、有能な人材の輩出、社会に役立つ研究成果を通して、広く社会に還元し、貢献してまいります。ご寄付をいただいた金額に税制上の優遇措置を受けることができますので、企業等法人及び個人の皆さまのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【募集期間】令和6年5月まで（常時受付入れさせていただきます）

【お問い合わせ】総務部総務課まで／詳細は本学ホームページをご覧ください。

<http://www.hokusho-u.ac.jp>

御礼申し上げます

本学同窓会淑萃会様より
6,588,000円のご寄付をいただきました。
(令和元年度)

ご支援賜りましたことを、厚く御礼もうしあげます。

